

平成18年度 第1回宮崎県福祉機械研究会 総会 議事録

～ 総会・講演会 ～

日 時 平成18年6月9日(金) 13:30～16:30
場 所 宮崎県工業技術センター 中研修室
TEL 0985-74-4311 FAX 0985-74-4488

1. 総会 (13:30～14:20)

出席者19名、委任状4名

会長挨拶

(有)優設計事務所 加藤優二氏

昨年度事業報告

事務局より昨年度終了事業についての報告を行った。

昨年度会計報告

昨年度の収支決算、監査報告について報告を行った。

総会出席会員により承認された。

本年度役員について

- ・本年度より新役員については、下記の会員が推薦され承認された。

決定事項

会 長 黒木 保善氏 (株式会社 昭和)
副 会 長 園田 実穂氏 (宮崎県介護・福祉研修所)
兼監査 中嶋 寿恵子氏 (軽費老人ホーム 青島荘)
会 計 山上 良彦氏 (株式会社 日光製作所)
事務局 布施 泰史 (県工業技術センター)

新入会者紹介及び退会者の報告

- ・4月より5名の方の入会がございました。お知らせします。

有限会社 くるま工房 くらぎ

代表取締役 黒木 順二 氏

宮崎県知的所有権センター

特許流通アドバイザー 片岡 博信 氏

みやざき障害者就業・生活支援センター

所 長 本田 博 氏

宮崎県介護・福祉研修所

所 長 園田 実穂 氏

有限会社 長友工務店

代表取締役 長友 光雄 氏 (6月13日 入会)

- ・2名の方の退会がございました。

有限会社 鹿嶋福祉器研究所

所 長 鹿嶋 龍夫 氏

有限会社 SAY WORLD

代表取締役 矢野 よう子 氏



本年度事業計画について

・事務局より本年度事業計画案について提案を行った。

【決定事項】

10月6～7日開催される九州福祉用具フォーラム in 鹿児島に、本研究会より参加することで決定した。
また、出展にかかる諸費用に関しては、一部研究会より補助すると言うことで決定した。

本年度 予算案について

経費収支計画のとおり今年度の予算が承認されました。（総会資料 P10 のとおり）

工業相談会について

1. 講演会（14:10～14:50）

講演題目 「売れる商品の作り方」

講演者 宮崎県産業支援財団
販売戦略コーディネーター
高峰 由美 氏

概 要

（1）講演要旨

商品の価値をあげる方法、販路拡大に関する戦略の立案等について最近のヒット商品の紹介を交えながら、わかりやすい内容で説明頂いた。現在、モノをつくるだけでは売れない。特に宮崎県では、商品はいいのだが「ブランド力」「商品アピール力」が弱いという。売れる商品づくりが求められ、お客さんの視点に立った商品、商品が、自分自身でアピールできる商品である（誰でも売れる商品）、購入後イメージできる商品（五感、品質、心地よさ等）以上、A I D M A（アイドマ）を起こす商品がすなわち売れる商品であるという。

今後、研究会会員方で販路について相談事項等ある場合は、高峰コーディネーターを訪ねて下さい。

* A I D M A とは：A (Attention: 注目)、I (Interest: 興味)、D (Desire: 購買意欲喚起)、M (Memory: 記憶)、
A (Action: 購買する)

（2）質疑応答（一部紹介）

（有）よしたにクロージングの介護シューズカタログ（新商品リアル）についてコメントを頂いた。

（コト）：従来の介護シューズの商品イメージとは違い、明るい商品カラー、やさしい色使い等、商品イメージは伝わりやすい内容であるとの意見を頂いた。



協議事項

協議内容

- 1 今年度の活動計画に関して、新たに取り入れたいテーマ・企画

【決定事項】

第2回研究会は、宮崎県介護・福祉研修所で開催する。8月上旬頃予定。

テーマ「研究会の理念づくり、会則変更」・・・これからの研究会の重点テーマ検討。

「企業等で開発した福祉用具等の紹介」・・・県内の開発品を知る。

「福祉用具等のネットワークづくり（ユーザー支援の観点から）」

- 2 メーリングリストについて

現在、研究会の情報提供等につきましては、事務局（布施）よりメールアドレスをお持ちの方のみ電子メールによる情報の提供を行っております。現状の方法では、会員同士のメールのやりとりには至っておらず、より一層の電子メールの活用が期待されております。そこで、今回、工業技術センターにメーリングリストサーバーを設置し、事務局と会員とが双方向にメールの交換ができるようメーリングリスト化を提案します。段階的には、県外の福祉用具研究者等の有識者にも参加頂けるシステムにしていきたいと考えております。2月23日に行いました幹事会では了承頂いております。

【決定事項】

- ・メーリングリストにする（案）は了承された。

利用する際のガイドライン、注意事項としては、登録されているメンバー全員に情報が知れるため、情報提供してよい内容のみ“メールに書き込む必要がある”。

- 3 九州福祉用具フォーラム in 鹿児島について（参加の是非）

10月6、7日開催の九州福祉用具フォーラム in 鹿児島において宮崎県福祉機械研究会として出展依頼がNEDO（先ずは、電話のみ）よりありました。出展の是非につきまして皆様方と協議したいと思っております。

【決定事項】

九州福祉用具フォーラム in 鹿児島に参加することで決定した。

出展者等詳細は後日協議する。

- 4 ディスカッション（自由意見）

Q1. 研究会の今年の目的は販路なのか？共同研究なのか？

A1. 販路も柱の一つと考えているが、基本的には連携を強化することを検討したい。

すなわち、理念づくりであったり、技術と福祉ネットワークとの組織であったり。

・地域に出向いてもいいのではないか。

・少子高齢化支援の観点より考えていけばいいのではないか。

Q2. 組織作りについて

A2. 今回、宮崎県介護・福祉研修所が組織として参加した意義は、県内消費者からの福祉用具・住環境改善等に関する利用相談及び研修等の利用が、1万4千件程度/年あり、そのあたりのニーズ提供、研修等で支援ができるからであり参加した。

- ・地域の包括支援センターと連携してはどうか。
- ・NPOも視野に入れて検討してはどうか。

Q3.全国的な組織づくりの例は、

A3.福祉車輛の改造等を行う企業は、全国に27カ所あり連携ができています。福祉機械研究会に求める・期待していることは、福祉技術等に関する相談、販路拡大、他の技術情報収集である。

Q4.全国には福祉用具の修理等やオーダーを提供する“福祉工房”があるが、宮崎県では福祉機械研究会がその役目を担えるのではないか。

A4.延岡では、(株)昭和が中心となって、車いす等の修理・オーダーに取り組んでいる。また、技術者は自社を退職された機械・溶接工の熟練工を再雇用して働いてもらっている。シニア技術者の雇用促進を進めている。

福祉用具の連携と言うことであれば、(株)昭和では金属加工が中心でありその技術を生かし、簡易パイプベッドをオーダーで製作しているが、利用者から木製の簡易ベッドが欲しいとのニーズを受け、(株)日南家具工芸社に協力を依頼し、連携して製作を行っている。(事例)

Q5.研究会はまだ県内では知られていない。PR方法を考えてはどうか。

A5.研究会のチラシをつくってはどうか。

- ・フロー図をつくる。用具別でグループを分けるなど。

最後に、今回の総会、意見交換会では、19名もの方がご参加下さいました。ありがとうございました。今後とも会員皆様方で作っていく研究会をご支援の程よろしく申し上げます。

宮崎県福祉機械研究会
会員 各位

発信人 / 宮崎県工業技術センター
機械電子・デザイン部内
宮崎県福祉機械研究会事務局 布施

T E L . 0985(74)4311
F A X . 0985(74)4488

発信内容 年会費のご連絡について

前略 会員各位におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

* 平成18年度年会費の振込のお願い

平成18年度の年会費(5,000円)につきまして、下記の振込先に入金して頂きますようお願い申し上げます。なお、振込の場合は手数料が210円かかります。

よろしくお願い致します。

《郵便振込》

郵便貯金総合通帳

記号 17310

番号 15635201

名義 宮崎県福祉機械研究会事務局

【注意事項】

* 次回、8月上旬 第2回研究会でお支払いして頂いても構いません。

* 会費は、企業会員様のみ頂いております。今後は、会費を納めて頂く方(主に企業の方)を正会員、福祉施設等支援を頂く機関の方を賛助会員(無料)として会則改正を含めて協議する予定です。